



市野瀬という地質図幅に わが国第2の高峰北岳(3,192.4 m)をはじめ 仙丈ヶ岳(3,032.7m) 甲斐駒ヶ岳(2,965.6m)等 登山家に比較的なじみのある山々が含まれていることは意外に知られていないかもしれない。この地域は わが国有数の山岳地帯である赤石山地(南アルプス)の北部及びその西麓に当たり 前述の山々をはじめとする急峻な山岳と 深く刻まれた峡谷で特徴づけられる。また この地域の南東部から中央部戸台にかけて ひと頃新聞紙上等で話題となった南アルプス(スーパー)林道が走っている。

この地質図幅地域は 地質学上は西南日本の北東端に近く 特に西南日本外帯の諸地質区が糸川川一静岡構造線と中央構造線とに挟まれて急激に狭まり 遂に完全に切断される地点近くに位置している。西南日本外帯を構成する地質区は いずれも帯状の分布を示すが 本地域内には西から東へ順に三波川帯 御荷鉾・秩父帯 四万十帯が露出している。これらの各帯は帯状分布の最も顕著な地域 例えば四国と比べて異常に狭い分布を示している。西南日本内帯に属する領家帯を含めて 以上の各帯は南北に走るほぼ平行した3本の断層(中央構造線 岩入衝上断層 仏像一糸川構造線)によって互いに隔てられている。四万十帯の東部には中新世の甲斐駒・鳳凰花崗岩が侵入し 周辺の四万十帯岩石に接触変成作用を与えている。この花崗岩体を含め四万十帯の東縁は糸川川一静岡構造線によって切られている。

領家帯から四万十帯に至る各地質区が 東西約22.5 kmの本地域中に南北走向を持って帯状に延びているため 東西に横断するルートをとればこれら各帯を短時間に巡検することも可能である。その場合考えられるルートは 北岳東方の広河原を出発点として南アルプス林道を通り北沢峠を経て戸台へ下るコースである。これによって 四万十帯 御荷鉾・秩父帯の石灰岩(上部層) チャート(中部層)及び前期白亜紀の戸台層を見ることができる。途中北沢峠から甲斐駒ヶ岳への往復を追加すれば 甲斐駒・鳳凰花崗岩のうち甲斐駒型花崗岩と接触変成岩が見られる。戸台から先は 定期バスの通る戸台川(黒川)沿いに三峰川との合流まで行き 更に女沢林道女沢峠を経て駒ヶ根市大首倉に至るコースでは 御荷鉾・秩父帯の緑色岩(下部層) 三波川帯 領家帯を見ることが可能である。

このルートは北沢峠—甲斐駒ヶ岳間を除けばすべて車道である。ただし南アルプス林道の車輛通行には許可が必要であるし 山梨県側(北沢峠—広河原間)は昨年8月の台風による道路の損壊が激しいので すべて徒歩で それこそトレッキングのつもりにでもなって行かれることをお勧めしたい。

5万分の1地質図幅の新刊

市野瀬

ICHINOSE

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著 者 河内洋佑・湯浅真人・片田正人
 発 行 工業技術院 地質調査所
 取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 2,390円

地質ニュース	第349号	9月号
昭和58年9月1日	定価 ¥540	千実費
編集	発行	
集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久	
発行所	株式会社 実業公報社	
印刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京 1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	